

壱岐の未来を拓く「人」への投資 “壱岐みらいキャンパス構想”

最適な未来を自ら選択し、実行する。変化の時代を生き抜く力「フューチャーリテラシー」

まなびのみなとプロジェクト（教育×観光）チーム

PM：小川和伸、塚本和広、村田靖 PL：松尾俊一、村田孝文

SL：澤田員儀、寶来惇貴、中村勇貴



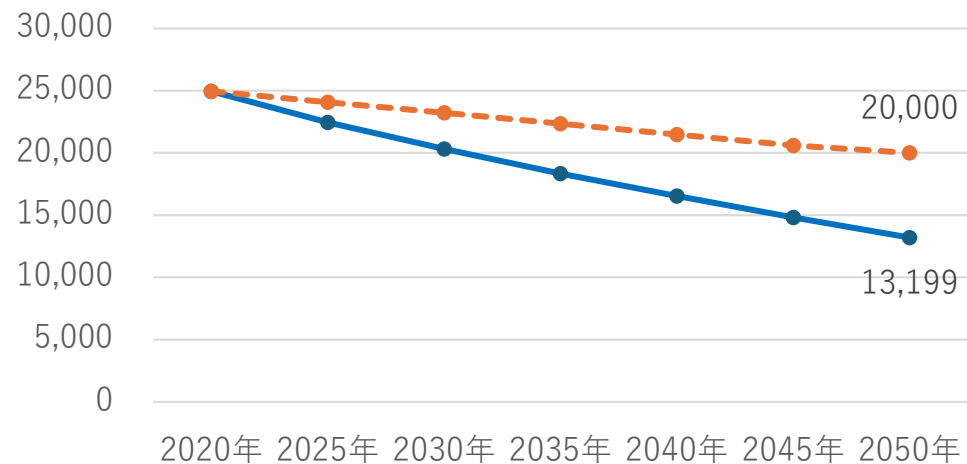
壱岐みらいキャンパス構想：「学び」を切り口に挑戦する若者を呼び込む

若者と地域の双方向の学びで、個人の成長が地域の価値を高め、さらなる挑戦を呼ぶ好循環を創出します。

現状の課題 | 壱岐市が直面する現実

深刻な人口減少、特に未来を担う若者世代くびれゾーン（19～39歳）の島外流出が加速。地域の活力が低下傾向

壱岐市の人口推移・予測



目指す未来 | 壱岐みらいキャンパスが描く未来

多様な人々が未来を自分たちで選択するための「ターミナル」として、集まり関わり続ける島



壱岐みらいキャンパスが創る、地域と市民の新しい未来

壱岐市の人口くびれゾーン（19～39歳）を呼び込み活力を高めることで、地域活性化を実現します。

地元企業・事業者のメリット

次世代経営者の育成と「他流試合」

地域外の若者や企業人との交流を通じ、後継者の育成や革新的な視点の獲得を支援します。



経営課題への解決アプローチ

外部の知見や学生の力を活用し、労働生産性の向上や人手不足解消の糸口を探ります。



社会実装・商品化への伴走

アイデアを提案で終わらせず、商品開発や先端技術実証など「形にする」活動を支援します。



市民のメリット

フューチャーリテラシーの獲得

自分の未来を自ら選び、実現していくための「生き抜く力」を習得できます。



自己実現とウェルビーイング

年齢を問わず「なりたい自分」を目指す学びの場があり、自分らしく安心した暮らしに繋がります。



活気ある「くびれゾーン」の創出

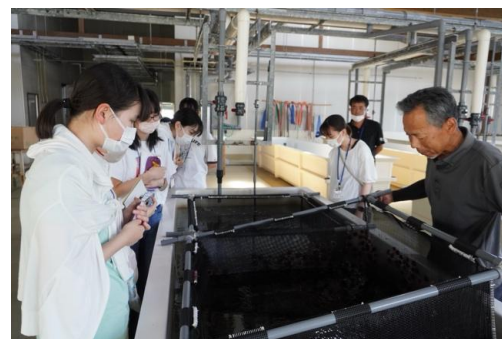
若者世代（19～35歳）の活力を高めることで、地域経済と社会基盤の維持・向上を目指します。



既に「学び」を切り口にした新しい人の流れが生まれている

壱岐市を学びのフィールドとして、企業、大学、高校の研修やフィールドワークの来島が増加しています。

- 日本旅行×豊島岡女子学園と、中高生が3年間かけて、壱岐市の地域課題をテーマに探究する授業とフィールドワークを開発。
- 株式会社リクルート、株式会社ペンシルなど、企業のインターンシップのフィールドとして活用されている。
- 日本旅行の80名規模の新入社員研修の受け入れなど、企業研修のフィールドとしても活用されている。



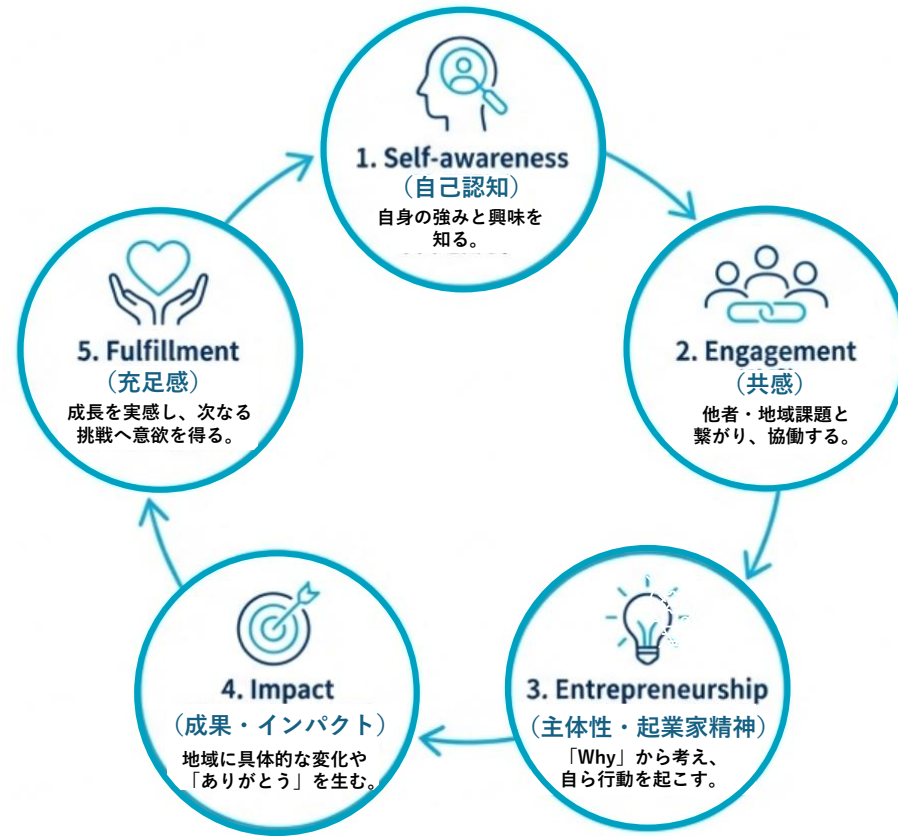
すべての基盤となる哲学：変化の時代を生き抜く力「フューチャーリテラシー」

壱岐みらいキャンパスでは、壱岐に関わるすべての人が「主体的な人材」となるために必要になるOS（オペレーション・システム）として、「フューチャーリテラシー」の習得を支援

フューチャーリテラシーとは

これからは、複数ある未来の中から自分にとって最適解を見つけ、自律的に生き抜く力（フューチャーリテラシー）です。

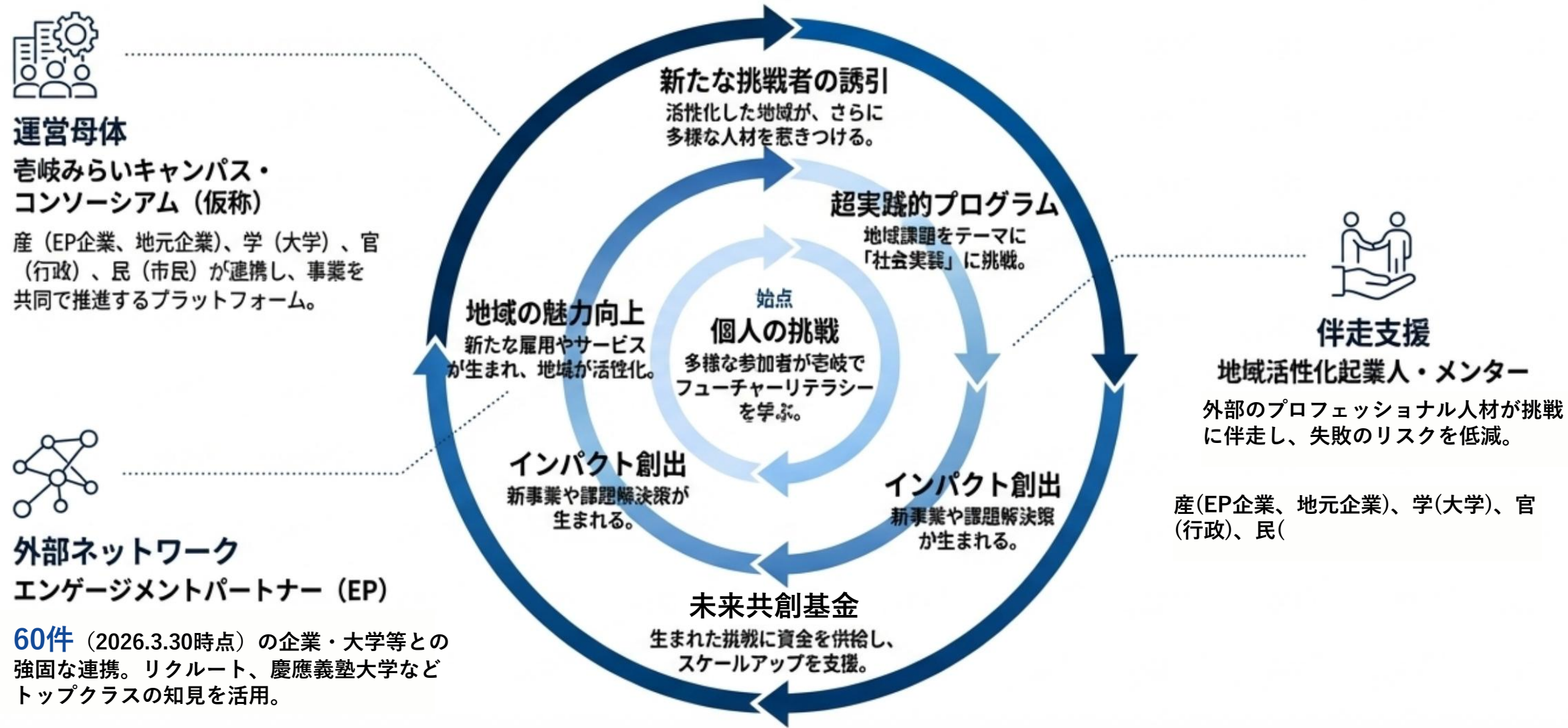
これは、単一のスキルではなく、あらゆる挑戦の土台となる「OS（基本ソフト）」であり、一度インストールされれば、さまざまなアプリケーション（事業や政策）を自律的に動かすことができるようになります。



ニーズ

VUCA変化が激しく、将来の予測が困難な時代では、指示を待つのではなく、自らの意思で考え能動的に業務を遂行できる人材が求められています。

主体的な人材を育み、個人の成長が地域の未来を創造するエコシステムを構築



壱岐みらいキャンパスを実現する統合戦略

1



教育プログラム

壱岐のリアルな地域課題を教材に「提案で終わらない社会実装」までを経験できる多様なターゲットに最適化した超実践的教育プログラム

2



未来共創基金

主体的な人材を育み、個人の成長が地域の未来を創造するエコシステムを構築

3



拠点・インフラ

壱岐島全体を、多様な人々が学び、実践し、交流する一つのキャンパスと定義
多様な人材が快適に滞在し、交流する環境を整備

4



プロモーション

壱岐を多様な人々、文化、知性が交差し、新たな価値が生まれる場所「カルチャーターミナル」として、リブランディング。

多様なターゲットに最適化された超実践的教育プログラム

壱岐のリアルな地域課題を教材に「提案で終わらない社会実装」までを経験できる唯一無二のプログラム群

プログラム概要	ターゲット	提供価値
ネクストリーダーズ・キャンプ	EP企業社員向け 次世代リーダー候補 新規事業担当者	異業種交流を通じた視野拡大 現場のリアリティに根差したCSV／SDGsの実践機会
次世代経営者共同研修	地元企業・後継者向け 若手経営者/跡継ぎ	外部人材との「他流試合」による新事業創出。 後継者不足や生産性向上といった経営課題への具体的なアプローチの提供
探究学習・課題解決型 フィールドワーク	大学生・専門学生 高校生向け	教科書では学べない「実装・実用化」の成功体験。 キャリア形成や起業家精神を醸成し、将来の移住・起業 予備軍を育成
「共創」実践的研修	官民連携担当者	前例踏襲から脱却し、「Why（なぜやるのか）」から政 策を構想するスキル習得 市民と「共創」するための実践手法のリカレント教育

壱岐みらいキャンパスの教育プログラムによる価値：ペルソナストーリー



佐藤 健太 (32歳) / 大手ITメーカー勤務
 プログラム: IFCネクストリーダーズ・キャンプ
 Before: デスクワーク中心で、社会貢献事業にリアリティを感じられない。
 After: 壱岐の課題に「共感」し、自社技術を活かした社会実装に挑戦する「起業家精神」を習得。



長嶋 大輔 (28歳) / 壱岐の老舗事業所 4代目候補
 プログラム: 次世代経営者共同研修
 Before: 家業の将来に閉塞感。島内だけの人間関係に限界を感じる。
 After: 島外人材との交流で自社の強みを「自己認識」。DXを取り入れた新サービスを立ち上げ、地域の若者の雇用を創出。

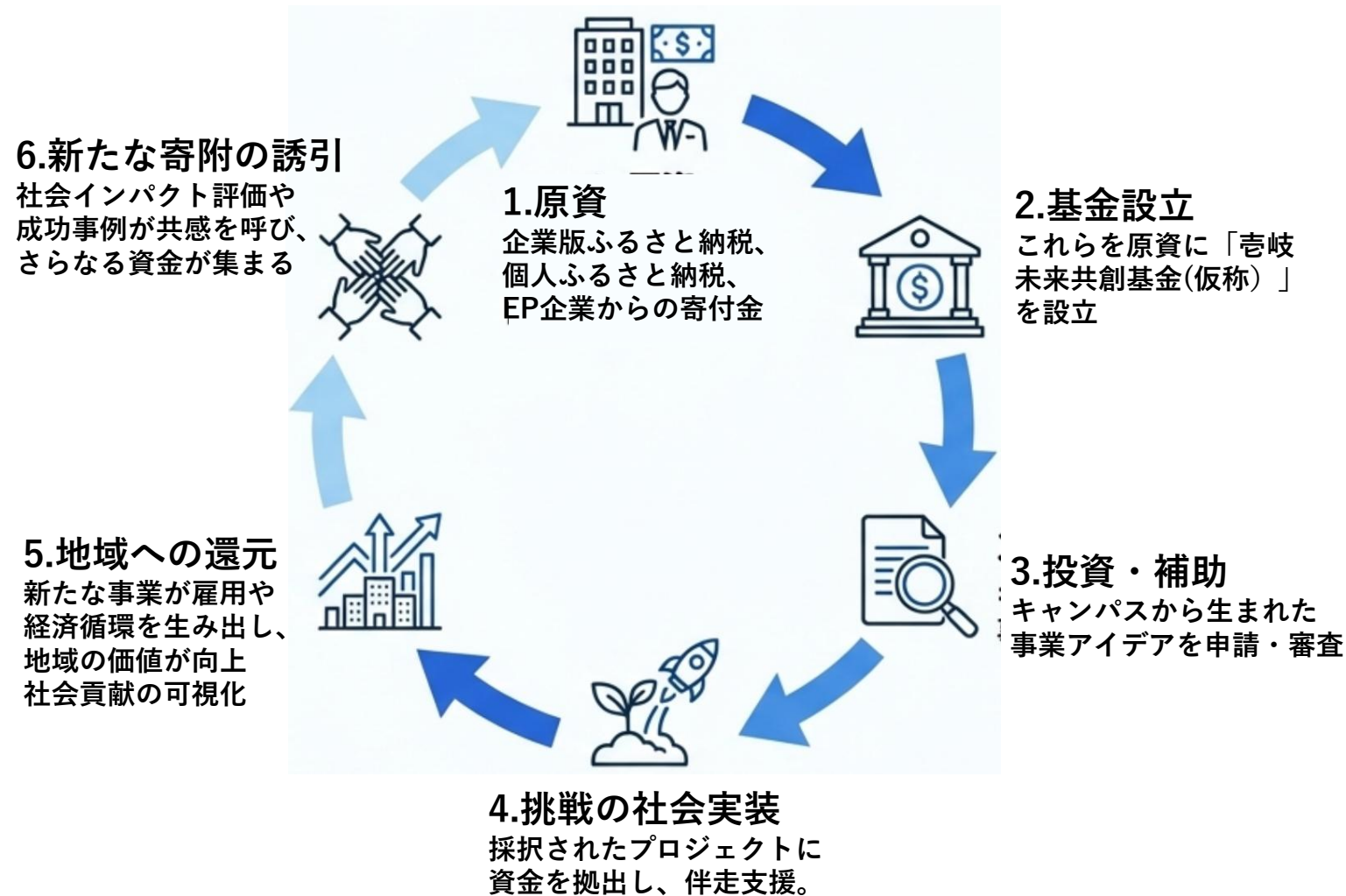


伊藤 駿 (21歳) / 情報工学専攻の大学生
 プログラム: 課題解決型フィールドワーク
 Before: 自分の技術がどう社会に役立つか、試す場がない。
 After: 一次産業のDX化に挑戦し、農家から「ありがとう」と言われる「インパクト」を経験。将来の起業という選択肢を得る。



小林 真治 (35歳) / 他県の中堅市役所職員
 プログラム: 「共創」実践的研修
 Before: 「What (何をするか)」の業務に追われ、「Why (なぜ)」を考える余裕がない。
 After: 壱岐で市民との対話手法を学び、地元に戻って組織変革のリーダーに。住民の「共感」を政策の力に変える。

挑戦を支え、新たな価値創造を加速させる資金循環モデル「未来共創基金」



目的

挑戦者が資金面の不安なく行動できる仕組みを構築し、「インパクトを生む行動」を直接支援

特徴

単なる補助金ではなく、吉岐の未来を創る挑戦への「投資」

経済的支援

学生向けには奨学金制度や電子地域通貨と連携し、滞在中の経済的負担を軽減

参考モデル

海士町「未来共創基金」
名護市「スマートシティコンソーシアム」の資金循環モデル

イノベーションを支える学びと交流のインフラ：島まるごとキャンパス

壱岐島全体を、多様な人々が学び、実践し、交流する一つのキャンパスと定義
多様な人材が快適に滞在し、化学反応を起こすための物理的環境を統合的に整備



1. 知の拠点：活動施設の整備

中核拠点：松永安左エ門記念館のリニューアルと連携し、イノベーションと共創が生まれるハブを整備

サテライト拠点：壱岐テレワークセンター「Free Will Studio」民間テレワーク施設との連携や遊休施設の活用



2. 交流の拠点：滞在環境の充実

宿泊：民宿の魅力化やサブスクによる大学生寮としての活用など多様な滞在ニーズへの対応

シェアハウス：EP企業や研究員が機動的に活動できる短期滞在「えんてらす」の提供（市営シェアハウス）



3. 利便性の向上：移動インフラの確保

コンセプト：島内どこにいても20分以内に生活に必要なサービスにアクセスできる状態を目指す

手段：オンデマンド交通や二次交通（E-BIKEなど）を確保し、快適な移動をサポート（エンゲージメントパートナーと連携）

4. デジタルコミュニティ：Slack等を活用し、島外にいる期間も継続的に研究や交流ができるオンライン環境を提供

カルチャーターミナルとして、共感を巻き起こすプロモーション戦略

壱岐を多様な人々、文化、知性が交差し、新たな価値が生まれる「カルチャーターミナル」として機能

ポジショニング

「社会実装の聖地」



「提案して終わり」ではない、実際に形にする経験ができる唯一無二のフィールドとしてのブランド確立

「フューチャーリテラシーの総本山」



個人の成長が地域の成長に繋がるという哲学「フューチャーリテラシー」を発信し、共感を集める

「未来を選択するターミナル」



多様な人々が壱岐を訪れ、学び、再びそれぞれの現場へ羽ばたいていく成長の循環拠点としての役割

具体的なアクション

- イノベーション交流祭「IKI CULTURE TERMINAL FES.」の開催
- 市民対話会、エンゲージメント・コミュニティ・ラボ（e市民対話会）の開催
- エンゲージメントパートナーネットワークを活用した戦略的な企業連携の推進



主要マイルストーンとロードマップ

令和7年度
2025

- 壱岐みらいキャンパス構想の実施計画の策定
- 運営組織「壱岐みらいキャンパスコンソーシアム」設立準備（大学、企業等との連携）
- カルチャーターミナルフェス開催など、仕掛けのプロトタイピング

令和8年度（2026）

基盤構築期

- 壱岐みらいキャンパスコンソーシアムの設立
- 未来共創基金（企業版ふるさと納税）の制度設計
- 地域活性化企業人など外部コア人材の確保
- 各教育プログラムのプロトタイプ開発と試行

令和9年度（2027）

事業展開期

- 教育プログラムの本格展開（ネクストリーダーズキャンプ等）
- 未来共創基金の運用開始
- 松永安左エ門記念館リニューアルと連携した拠点整備の具体化
- IKI CULTURE TERMINAL Fes開催等大規模イベントの定例開催
- 学生等の滞在環境の充実に着手

令和10年度（2028）

エコシステム確立期

- キャンパス中核拠点施設の本格稼働
- プログラム卒業生によるコミュニティ形成
- 壱岐みらいキャンパスコンソーシアムによる広域単位互換など大学連携の自走化

ぎ岐みらいキャンパスがもたらす長期的インパクト

「主体的な人材」の育成と集積は、ぎ岐の人口動態と産業構造に質的な変革をもたらします。

1.人のインパクト： 関係人口から定住人口へ



目標：人口の「くびれゾーン（19～39歳）」の増加

- プログラムの参加者が「e市民」となり、継続的にぎ岐と関わる
- 卒業生の中から移住者や起業家が生まれ、新たな活力を創出
- 企業や他自治体職員との交流が、全国的なネットワークハブとしての地位を確立

2.仕事のインパクト： 「稼げる仕事」の創出



目標：若者が働きたいと思える魅力的な仕事（受け皿）の創出

- 未来共創基金がスタートアップを支援し、新たな産業が生まれる
- 地元企業の次世代経営者が育ち、事業を革新・拡大する
- 一次産業のDX化など、高付加価値な仕事が増加する

3.地域のインパクト： 持続可能性な未来への転換



目標：自律した個人の成長が地域を支える「アップサイクルな成長スパイラル」の定着

- 市民、行政、企業の「共創」が当たり前になり課題解決のスピードが向上
- 「学びの聖地」としてのブランドが確立し、持続的な人流と投資を呼び込む

壱岐みらいキャンパスは「最適な未来を選択するターミナル」



壱岐みらいキャンパスは、単なる教育施設ではありません

多様な人々が壱岐というフィールドに降り立ち、「**フューチャーリテラシー**」という未来を生き抜くOSをインストールし、それぞれの現場へ、そして新たな未来へと羽ばたいていくための「**ターミナル**」です。



哲学：「**フューチャーリテラシー**」を習得した主体的な人材を育成する。



仕組み：個人の成長が地域の未来を創る「**アップサイクルな成長スパイラル**」を回す。



未来：このターミナルでの出会いと学びを通じて、未来を自分たちで選び実現する力を手に入れます。